

自分だけの夢じゃない。 ラグビー界に貢献するため、 タツクルし続ける。

土台にあるのは、 不屈の淑徳魂。

愛知淑徳は、夢が広がる学校だと思えます。私も高校3年間、勉強、運動、学園祭での合唱や演奏など何事にも全力投球して、いろんな目標や希望に突き進んでいく濃密な日々を過ごしました。その中心にあったのが、ソフトボール部です。全国レベルの強豪チームの中で私はおちこぼれ。だからこそ人一倍努力して、ものすごく厳しい練習にもがむしゃらに取り組みました。「チームで一番足が速いんだから、とにかくボールを当てて塁に出ろ」と顧問の宮沢先生にピンピンと鍛えられ、右打ちから左打ちに転向。一番バッテリーを任せられ、ヘッドスライディングで試合を盛り上げることに専念しました。自分の力を最大限に伸ばして、チームに貢献したい——その思いはラグビー選手となつてからも

変わりません。力強いファーストブレイヤビタツクルでチームの士気を高めることを大切にしてきました。

高校卒業後は教育大に進学し「学校の先生になる」という幼い頃からの夢を実現。さらに、憧れだった名古屋レディースRFCに所属して、大好きなラグビーにも打ち込みました。大学を出た後は名古屋市の小学校で非常勤講師をしながら、ラグビー選手として国内外の大会に出場。不屈の淑徳魂を燃やして全力疾走しました。

ラグビーに全力を注ぐ、 カッコイイ母でありたい。

23歳で結婚、24歳で娘を出産した私にとって、「ママさんラガー」としてグラウンドで輝き続ける」ということも大事な目標です。もちろん、くじけそつになることもあって、

特に両ひざや肩などのケガには随分泣かされました。それでも立ち上がったのは、家族や友人、先輩・後輩、チームメイト、ファンのみなさんが応援してくれるから。ラグビーにかける思いは、いつの間にか私一人だけのものではなくなつていったのです。夢に向かって一生懸命頑張り続けると、支えてくれる人の輪が広がって、大きなパワーや勇気がもらえるのだと心から感謝しています。

私をアスリートとして、人として大きく育ててくれたラグビーに恩返しをするためにも、今後は選手としてだけでなく指導者としてのスキルも磨いていきたい。「カッコイイ母」の姿を娘や後輩たちに示して、彼女たちが自分の将来をもっと自由に考えるきっかけになったら嬉しいなと思っています。愛知淑徳で学ぶみなさんも、いろんな夢や目標、希望を見つけて、自分の可能性をどんどん広げてくださいね。



ソフトボール部が一丸となって切磋琢磨して、高3のとき、インターハイと国体へ。「力を出しきれた!」と充実感に満ちていました。



2016年、女子セブンス日本代表としてリオデジャネイロオリンピックに出場。「娘に応援の言葉をもらい、世界の大舞台に挑みました」。

ラグビー選手 (名古屋レディースRFC) 兼松 由香さん(旧姓:本間)

愛知淑徳高等学校を2001年3月に卒業。愛知教育大学への進学を機に、5歳から12歳まで熱中したラグビーを再開、名古屋レディースRFCに所属。19歳のときから国際大会に出場し、結婚・出産を経て第一線で活躍し続ける。